

第2回 厳木川中島地区かわまちづくり協議会 議事概要

日時：令和6年2月20日（火） 15：00～16：00

場所：唐津市厳木市民センター

出席者：出席者名簿のとおり。

議事概要

1. 議事内容

- 事務局より資料-1 を用いて、厳木川中島地区かわまちづくり計画（第4次案）、第4回ワークショップの開催報告、厳木川中島地区の維持管理の現状について説明した。
- 議事内容について、委員からは以下の意見をいただいた。

議事内容に関する意見

意見	意見	事務局回答
①	・子どもが安全に利用できるために、ハード整備だけでなく、水難事故を防止するための看板の設置などソフト対策も入れると良い。	・看板の設置や安全教育などのソフト対策については検討していく。
②	・整備に際してホタルの生息場に配慮する必要がある。	・具体的な設計が進む中で学識者の意見を取り入れるなどの対応を行っていききたい。
③	・保健センター等の既存施設との連携や活かし方について検討して欲しい。 ・川で学習する際には、川に入る前後で講義等の学習の時間を設けたいため、河川の周辺に利用できる施設があるとよい。既存施設との連携については検討して欲しい。	・環境教育等における学習の場の確保は必要と考えているため、既存施設との連携や活用という観点は計画に反映していく。
④	・ホタルが対岸（左岸側）に多い状況で、散策路整備に併せて散策路付近にホタルが飛翔するような整備ができれば、子どもたちの観賞しやすく、また、観光客の呼び込みも期待できると思う。	・散策路付近に植生が付くような場を創出するなど、設計に際しては環境に配慮した整備となるよう検討していく。
⑤	・かわまちづくり計画は、中島地区全体を盛り上げていくものであると認識している。その中で、コミュニティセンターの解体が遅れると、その効果が薄れると思う。優先的な解体についても検討していただきたい。	・かわまちづくり計画を完成させるためには、コミュニティセンターの跡地の活用が不可欠であると考えている。跡地の活用が進むように動いていきたいと考えている。

2. 今後のスケジュール

- 事務局より資料-1 を用いて今後のスケジュールを説明し、第5回ワークショップで維持管理に関する議論を進め、第3回協議会ではかわまちづくり計画の申請書（案）について説明・確認し、R6年度にかわまちづくり計画を申請することについて、委員からの了承を得た。
- R6年度のかわまちづくり計画の申請後も引き続き協議会やワークショップを開催し、かわまちづくりを推進していくことについて、委員からの了承を得た。

開催状況



会長挨拶



唐津市挨拶



協議会の様子



協議会の様子（質疑応答）

協議会の開催状況

出席者名簿

第2回 厳木川中島地区かわまちづくり協議会

日時 令和6年2月20日(火)午後3時～

場所 厳木市民センター大会議室

区分	所属	役職	氏名	備考
委員	中島区	区長	相島 誠二	
委員	中島区	区長代理	吉原 松己	
委員	中島区	理事	田久保 貴章	欠席
委員	中島区	理事	中島 紀幸	
委員	中島老人会クラブ	会長	山口 恭弘	
委員	中島山笠保存会	会長	天川 俊雄	欠席
委員	中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会	事務局長	竹巖 英治	
委員	中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会	事務局次長	田久保 庸介	
委員	株式会社 風のふるさと館	代表取締役	千喜田 省三	
委員	厳木小学校	校長	前田 雅利	
委員	厳木中学校	校長	小浜 義博	
委員	認定こども園厳木さくらんぼ	園長	角田 美樹	
委員	きゅうらぎデザイン	代表	竹花 奈美子	欠席
委員	唐津市都市整備部	部長	岩熊 真一	
委員	武雄河川事務所	技術副所長	薄田 邦貴	
事務局	唐津市厳木市民センター	センター長	篠原 正彦	
事務局	唐津市厳木市民センター	総務・福祉課長	戸川 武幸	
事務局	武雄河川事務所 流域治水課	専門官	阿部 淳	
事務局	武雄河川事務所 流域治水課	流域調整係長	井上 哲博	
唐津市	唐津市都市整備部 都市計画課 計画景観係	係長	隅田 憲宏	
唐津市	唐津市都市整備部 道路河川管理課 管理係	係長	山崎 貴充	

第2回 巖木川中島地区かわまちづくり協議会

配席図

日時：令和6年2月20日（火）15：00～16：30
 場所：巖木市民センター大会議室

中島地区 中島地区 中島地区 中島老人クラブ
 理事 区長代理 区長 会長
 中島 紀幸 吉原 松己 相島 誠二 山口 恭弘



株式会社 風のふるさと館
 代表取締役
 千喜田 省三



認定こども園巖木
 さくらんぼ
 園長
 角田 美樹



巖木中学校
 校長
 小浜 義博



巖木小学校
 校長
 前田 雅利



中島水辺の交流とオアシスの
 郷づくり推進委員会
 事務局長
 竹巖 英治



中島水辺の交流とオアシスの
 郷づくり推進委員会
 事務局次長
 田久保 庸介



唐津市都市整備部
 部長
 岩熊 真一



武雄河川事務所
 技術副所長
 薄田 邦貴



出入口



武雄河川事務所
 流域治水課
 流域調整係長
 井上 哲博

武雄河川事務所
 流域治水課
 専門官
 阿部 淳

唐津市巖木市民センター
 センター長
 篠原 正彦

唐津市巖木市民センター
 総務・福祉課長
 戸川 武幸



唐津市都市整備部
 都市計画課
 計画景観係長
 隅田 憲宏

唐津市都市整備部
 道路河川管理課
 管理係長
 山崎 貴充

令和5年度 第2回 巖木川中島地区かわまちづくり協議会

日時：令和6年2月20日（火）15：00～16：30

場所：唐津市巖木市民センター

議事次第

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

【資料-1】

① 整備メニュー（第4次案）について

② 第4回WSの開催概要と結果報告

③ 巖木川中島地区の国・市・地元の維持管理の現状

④ 質疑応答

4. 今後のスケジュール

5. 閉会

第2回

巖木川中島地区 かわまちづくり協議会

令和6年2月20日

佐 賀 県 唐 津 市
九州地方整備局武雄河川事務所

第1回協議会から第2回協議会 までの経過と協議内容

1. 第1回協議会の開催概要

■開催概要（第1回葦木川中島地区かわまちづくり協議会）

- 日時：令和5年11月15日（水）
- 会場：唐津市葦木市民センター
- 参加者：協議会委員15名 他

■議事概要

- 要綱の施行
- 会長・副会長の選任
（吉原松己会長、相島誠二副会長が選任）
- 議事（第3次案の説明）
- 今後のスケジュール
（今年度にWSや協議会により議論を進め、R6年度にかわまちづくり計画の申請）
- 主な意見
 - ・かわまちづくりで整備する散策路は、治水安全上問題ないか
 - ・葦木川で子供が安心して遊べるような整備メニューも検討してほしい



唐津市副市長挨拶



協議会会長挨拶



協議会の様子

2. 第4回ワークショップの開催概要

第4回WSは、多くの地域住民の意見を取り入れるため2回開催した。

■開催概要（2回開催）

- 日時：令和5年12月16日（土）
令和6年1月21日（日）
- 会場：中島集会所
- 参加者：第4回WS① 30名
第4回WS② 31名 計61名



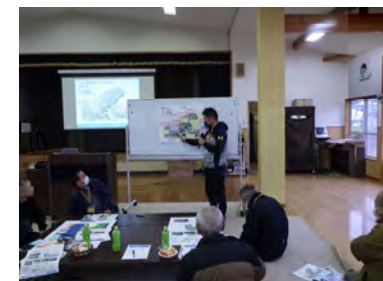
グループワーク結果（一例）

■実施概要

- 整備イメージ第4次案の説明
- グループワーク
 - ①整備イメージを仕上げよう
 - ②利活用イメージを共有しよう
 - ③維持管理について考えよう
- 全体ワーク
基本方針とキャッチコピーを掲げよう
- 全体とりまとめ



グループワーク



発表



集合写真
(第4回WS①)



集合写真
(第4回WS②)

3. 第2回協議会について

第2回協議会では、以下の事項を説明し、協議を行う。

■説明・協議事項

- 第4回ワークショップに提示した第4次案の説明・協議
- 第4次案に追加した事項
 - ①多自然川づくりに係る整備メニューの追加
稚魚の生息場・避難場となるワンド（水深の浅い水際環境の創出）の整備
 - ②子供達が安全・安心して利用できる整備メニューの追加
ワンド（水深の浅い場所）の整備、深掘れ箇所への埋め戻し、落差工（自然石を並べて流れを緩やかに）等の整備
- 中島地区の河川空間に係る維持管理の現状説明
 - ①維持管理の現状と国・市・地元の役割分担
 - ②次回、第5回ワークショップでは、維持管理の現状を踏まえた上で、新たに整備する施設のうち、役割分担（地元で何が出来るか）を議論

**巖木川中島地区
かわまちづくり計画
(第4次案)**

4. ハード施策の整備メニュー（4次案）

- コミュニティセンター周辺では、広場（テラス）を整備し、礫河原の整正や親水階段・坂路整備を行う。
- コミュニティセンターから古屋敷橋間では、水辺の散策路、親水階段、河岸整正を行う。



4. 整備メニュー（4次案）と利活用①（コミュニティセンター周辺）

- コミュニティセンター前では、礫河原を整正し散策路を整備することで川遊びや環境学習に活用しやすい場となる他、広場（テラス）・トイレ（水場）を整備することで、地域の方々がイベントや休憩、ホタル観賞などで活用していただくことが期待される。
- イベントや美化活動を通じ地域の熱意が上がり、人を呼び込みたい流れが生まれれば、広場を活用したマルシェやキャンプ等の活用も想定される。

■ 現況写真



護岸上部は鬱蒼として見通しが悪い。



水際に落差があり近づきにくい。

【トイレ（水場）の整備】

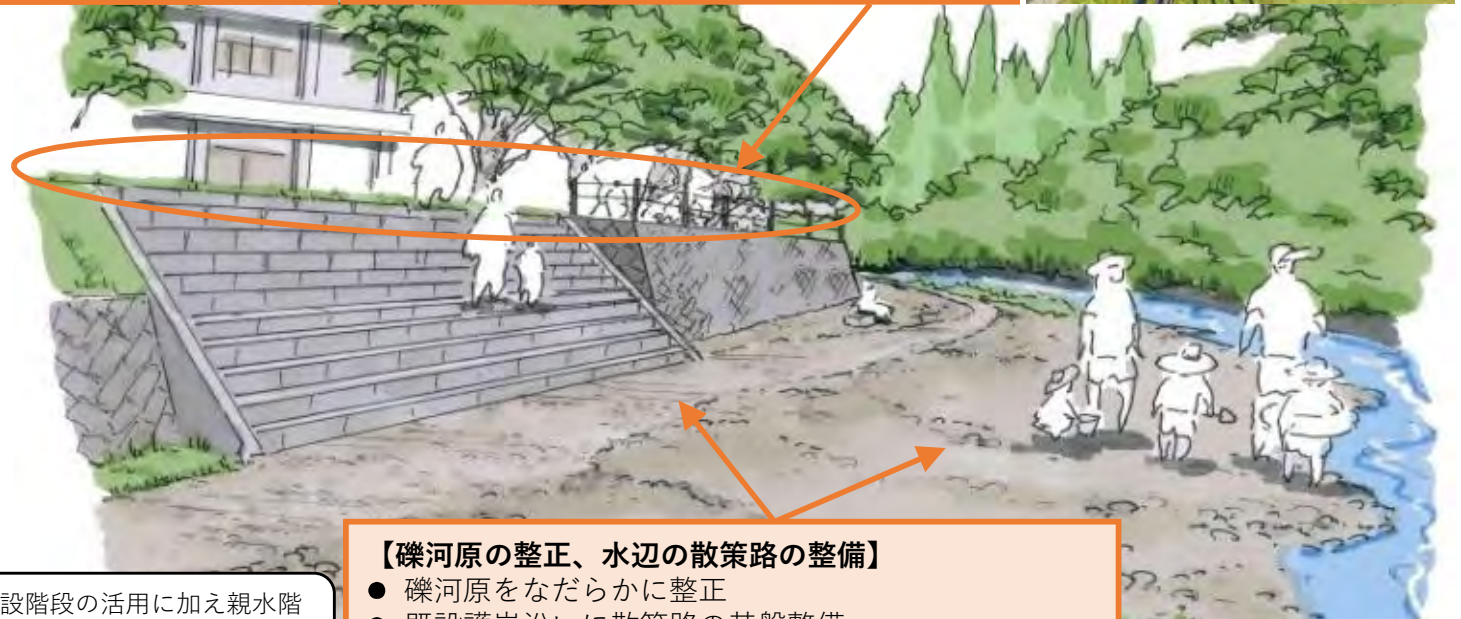
- 水場としての活用も可能なトイレの整備
- 地域でのイベント、休憩等での活用
- トイレ（水場）があることで将来的な広場活用（BBQ、キャンプ等）にもつながる。

【広場（テラス）の整備】

- 既存樹木の間引き（中低木の伐採）、安全柵やベンチの設置、芝張り（または舗装）による広場整備
- 地域でのイベント、休憩、花見、ホタル観賞等での活用
- 将来的にBBQ、キャンプ、マルシェ等、人を呼び込む場としての活用も可能



テラスのイメージ
（白川：熊本市）



【礫河原の整正、水辺の散策路の整備】

- 礫河原をなだらかに整正
- 既設護岸沿いに散策路の基盤整備
- 地域での散策、川遊び、ホタル観賞、また環境学習の場として、より安全・安心に活用できる場となる。

既設階段の活用に加え親水階段を整備し、水辺へのアクセス、利便性を向上させる

■ 整備イメージ

4. 整備メニュー（4次案）と利活用①（コミュニティセンター周辺）

4次案で新たに追加

- 昭和60年から平成25年頃までは「きゅうらぎ川あゆまつり」が開催されており、巖木川の河原でアユの放流、アユ・ヤマメのつかみ取り等の多彩なイベントが行われていた。
- 当時の水面幅は現在の1.5倍程度あり、水際部は流れが緩やかで水深も浅く、子供たちが川遊びする光景が見られたが、現在は土砂堆積（護岸高の半分以上）により、水面幅は川幅の1/3程度となっている。
- 当時の姿を取り戻すために、水面幅を広くし、水際部に子供達が安全に水遊びできるワンドを整備する。

■ 過去（H19年あゆまつり頃）の写真



【水深の浅い水際部】
H19年頃は土砂が堆積しておらず、水際部の水深は子供が安全に入れるくらい浅い。

■ 整備イメージ平面図

【自然石の落差工】
流れを緩やかにするために横断方向に自然石の帯工を設置する。

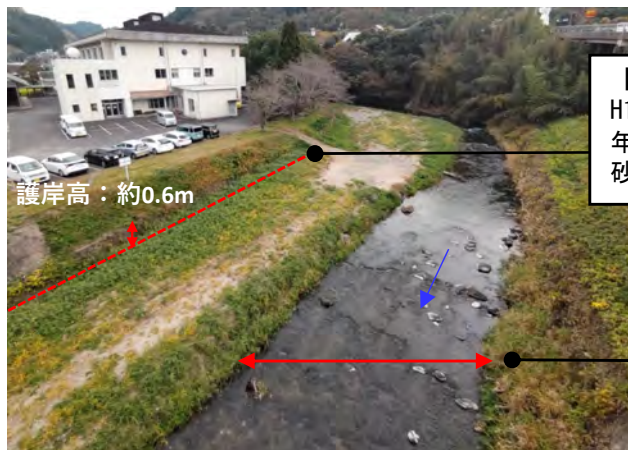
【自然石の中州】

子供達が安全に水遊びできるように、河川とワンドの境界部分に目印となる自然石を設置する。設置する石は出水時に流出しないように大礫（粒径50cm程度）とする。

【子供の水遊び場・ワンド】

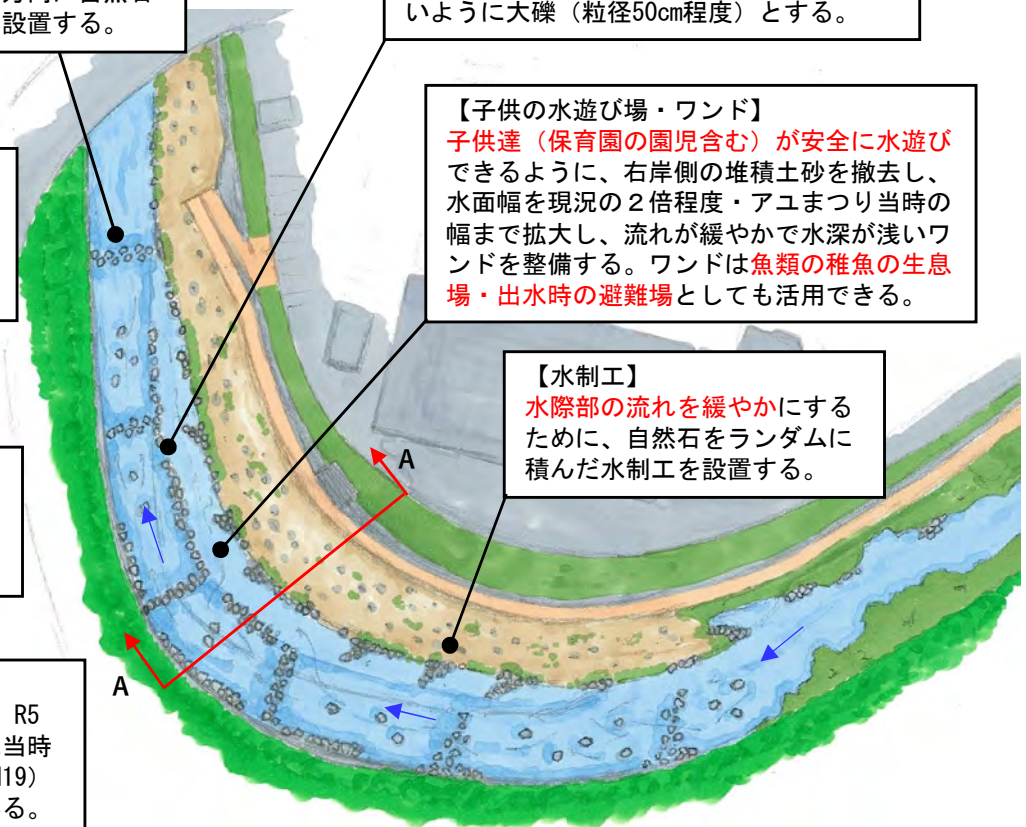
子供達（保育園の園児含む）が安全に水遊びできるように、右岸側の堆積土砂を撤去し、水面幅を現況の2倍程度・アユまつり当時の幅まで拡大し、流れが緩やかで水深が浅いワンドを整備する。ワンドは魚類の稚魚の生息場・出水時の避難場としても活用できる。

■ 現在（R5年12月）の写真



【土砂堆積厚】
H19年頃に比べて、R5年時点で1.4m程度の土砂堆積が見られる。

【水面幅】
H19年頃に比べて、R5年時点で水面幅は当時の66%程度（R5/H19）まで狭くなっている。



【水制工】

水際部の流れを緩やかにするために、自然石をランダムに積んだ水制工を設置する。

4. 整備メニュー（4次案）と利活用①（コミュニティセンター周辺）

4次案で新たに追加

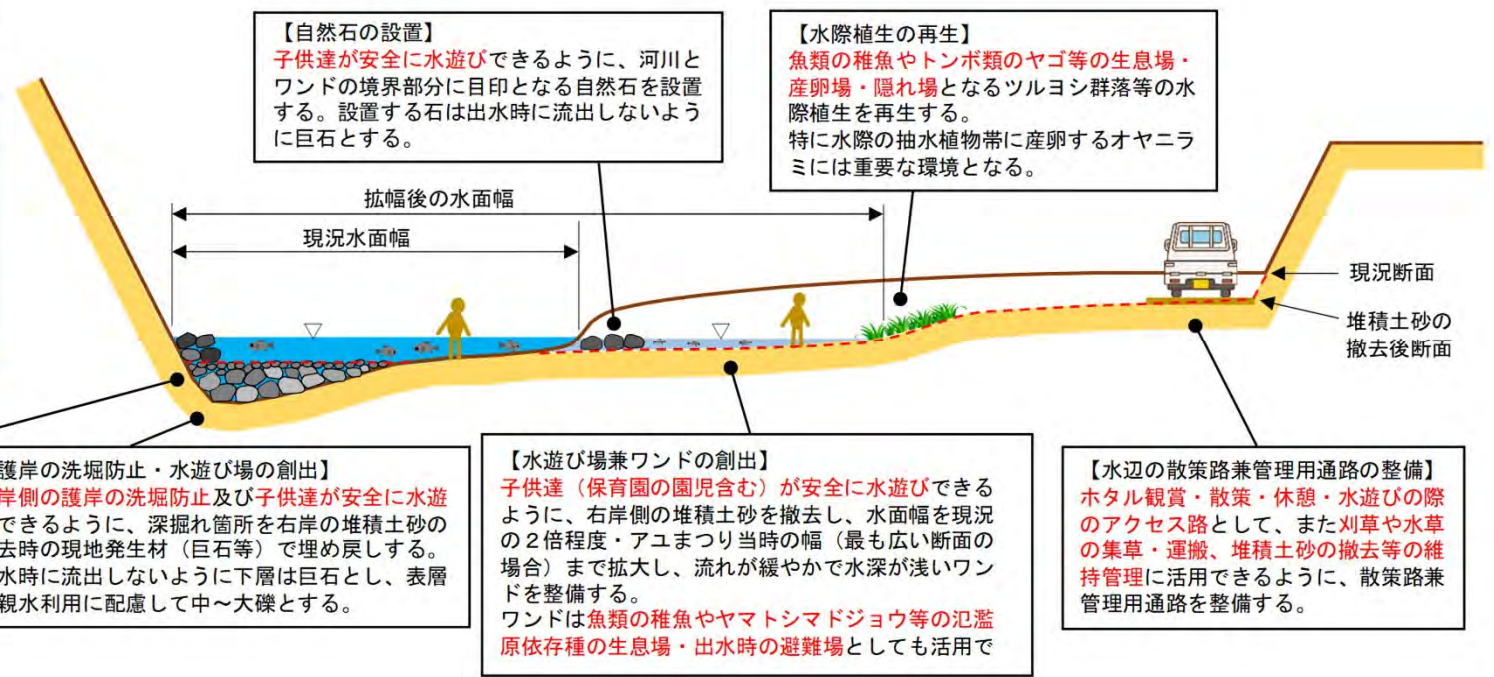
- 巖木川の中島地区は、地元の小学生やこども園の園児による川遊びに活用されているが、流れが速い箇所や水深が深い箇所があり、安全かつ安心して利用できる場の整備が求められている。
- 深掘れ対策、堆積土砂撤去、水遊び場・ワンド整備によって、環境学習や情操教育の場としての継続的な河川利用が進めば、地域や地域外から子育て世代が訪れ、こどもで賑わう場となることが期待される。

■ 現況写真



■ 整備イメージ横断図

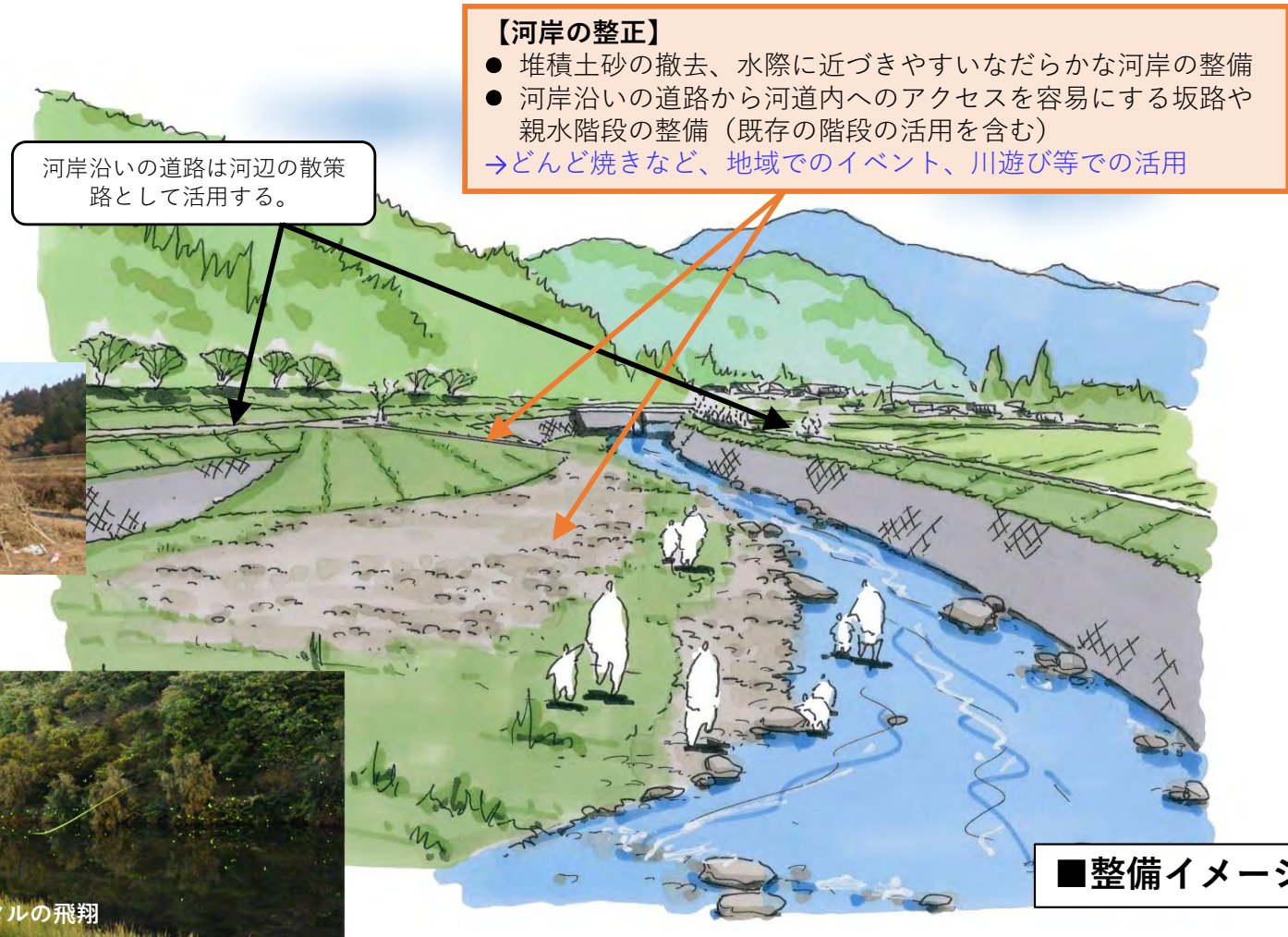
- 中島地区で生息する可能性がある氾濫原依存種：スナヤツメ南方種、ムギツク、ヤマトシマドジョウ、ナマズ、オヤニラミ（R4水国魚類：新万造橋）



4. 整備メニュー（4次案）と利活用②（古屋敷橋下流）

- 古屋敷橋から下流の河道では、河岸の堆積土砂を整理し、坂路や親水階段を整備することで河道内や水際へのアクセスを容易とする。川リンピックやどんど焼きなどの地域のイベントや普段の川遊びでの活用が期待される。
- これまでどおり、河岸沿いの道路は、普段の散策やホタル観賞等に活用していただく。
- イベントや美化活動を通じ地域の熱意が上がり、人を呼び込みたい流れが生まれれば、水辺などを活用したイベントによる地域興しへの発展も期待される。

■ 現況写真



5. 中島地区かわまちづくりの基本方針（案）とキャッチコピー

< 中島地区の特性 >

- ゲンジボタルやオヤニラミ等の自然豊かな良好な河川環境・空間を有し、多くの人々がホタル観賞に訪れ、地元が主体的にイベントや維持管理等を実施している。
- 周辺には小学校やこども園等の教育施設の他、温泉・道の駅等の観光資源を有し、佐賀市・唐津市を結ぶ立地の良さがある。
- 厳木川の豊かな自然環境を保全しつつ、さらなる河川利用の促進や周辺の教育施設・観光資源との連携、これらを活かした川づくり・まちづくりが期待される。

< 水辺とまちづくりの課題 >

- 水辺へのアクセス路が少なく、水辺の散策も一部の範囲に限定されている上、休憩やイベント利用に活用可能な場や施設が不足・老朽化している。
- 地元による維持管理やイベント活動が活発な中でアクセス面での不便が生じている。
- また、河川沿いの天端道路はホタルロードとして位置づけられているが、コミュニティセンター周辺からの連続した散策路は整備されていない。
- 河川周辺には人が集まる観光資源が点在するが、河川との連携が希薄である。
- 厳木地区の人口は唐津市内でも高い減少率となっており、厳木小学校の児童数も減少傾向にある。

< 基本方針（案） >

未来を担う子ども達や地域住民が、「安全」に「安心」して「楽しく」水辺とふれあえる場の整備を行い、「川遊び」、「環境学習」、「地域住民による美化活動・イベント」等を通して利活用が活発になり、厳木川を中心として「かわ」と「まち」がかつての賑わいを取り戻し、将来に渡ってさまざまな取り組みが続いていくことで、「かわ」と「まち」が繋がった地域の活性化を進めていく。

< キャッチコピー（案） >

過去と未来を厳木川でつなぐ ふれ合いプロジェクト！

巖木川中島地区かわまちづくり 第4回ワークショップ意見概要

6. 第4回ワークショップ①・②での主な意見

【整備内容】

- 散策路：延長・幅・素材・勾配・雑草の繁茂対策など、利便性の向上や維持管理の負担軽減。
- 階段：利便性・まちとの連続性を確保した階段の改良・新設。

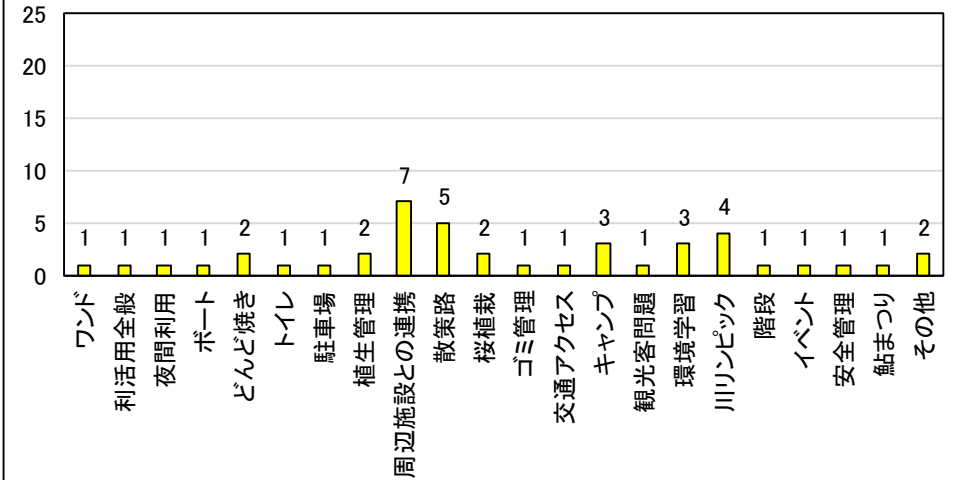
【利活用】

- 周辺施設との連携：道の駅、厳木温泉、白水酒造跡等の既存施設との連携や有効活用。
- 川リンピック：川リンピックの継続実施と環境学習等の他のイベントとのタイアップ。

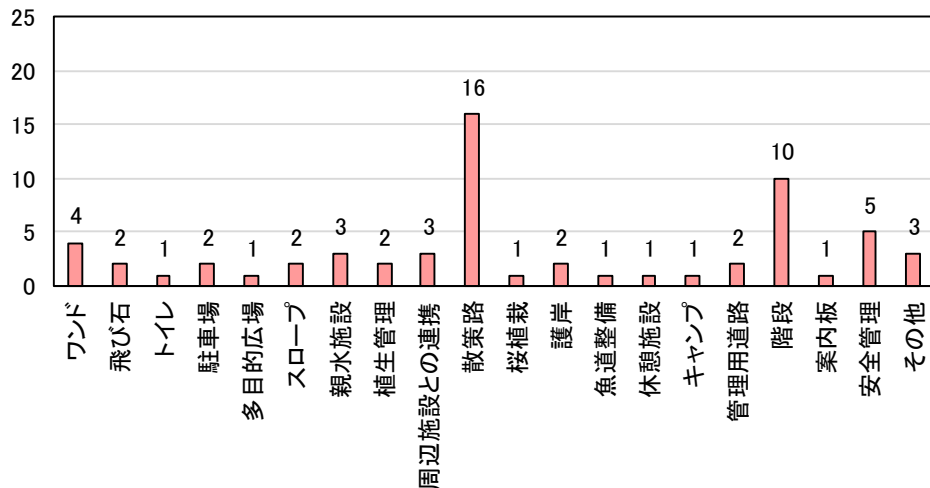
【維持管理】

- 植生管理：除草・樹木伐採・オオカナダモ除去等の作業分担・負担軽減。
- 土砂管理：堆積土砂の撤去（＝除草面積の軽減）

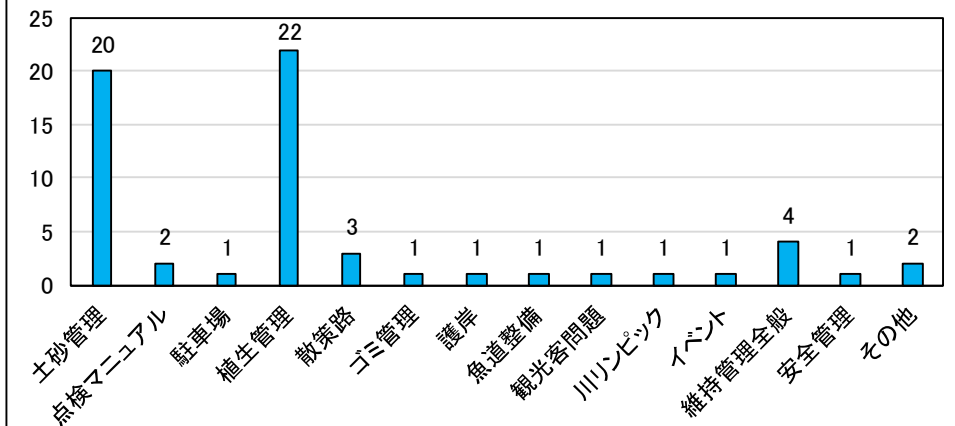
第4回ワークショップ①・②での利活用に関する意見 ■意見の数



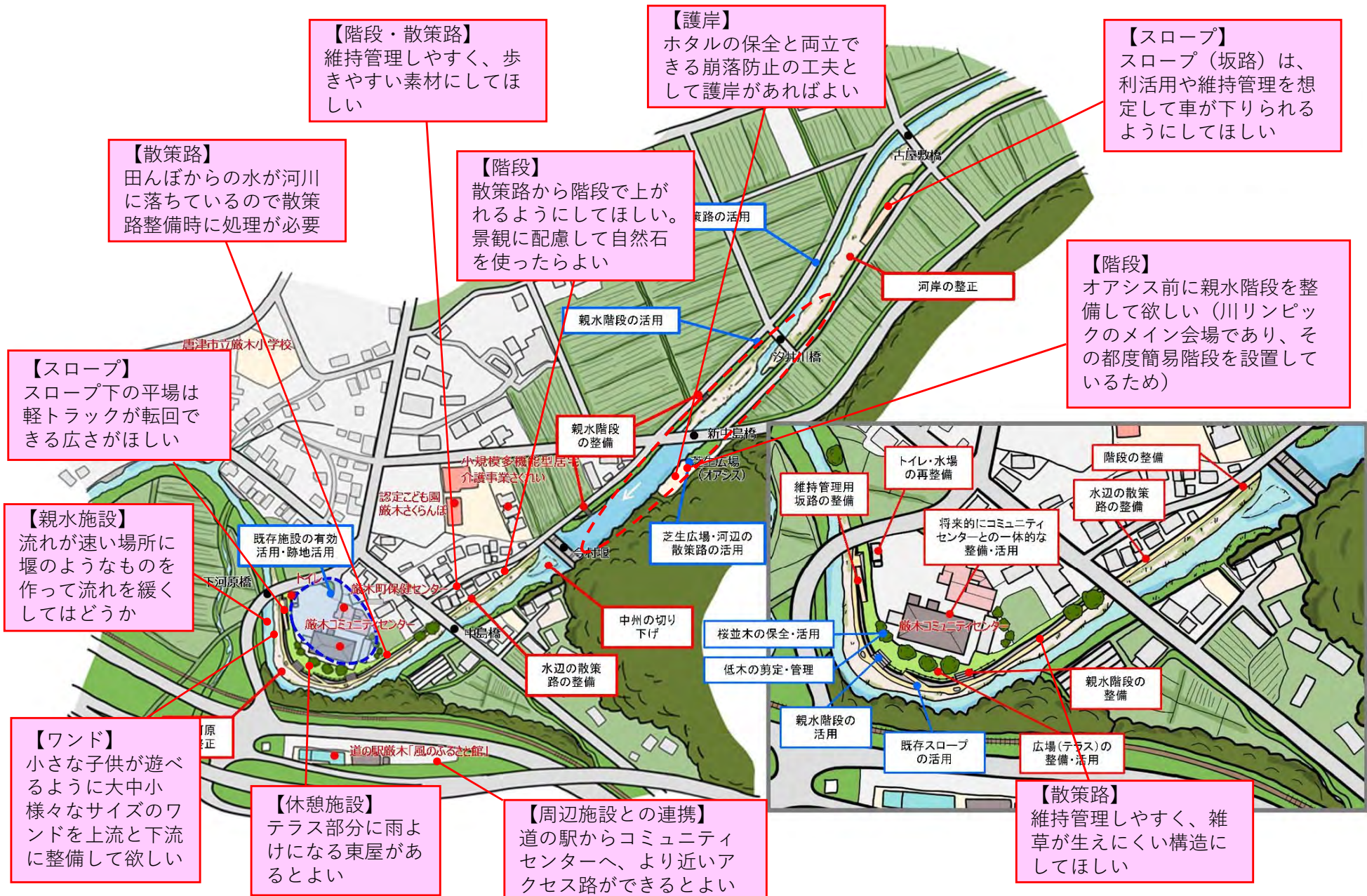
第4回ワークショップ①・②での整備内容に関する意見 ■意見の数



第4回ワークショップ①・②での維持管理に関する意見 ■意見の数



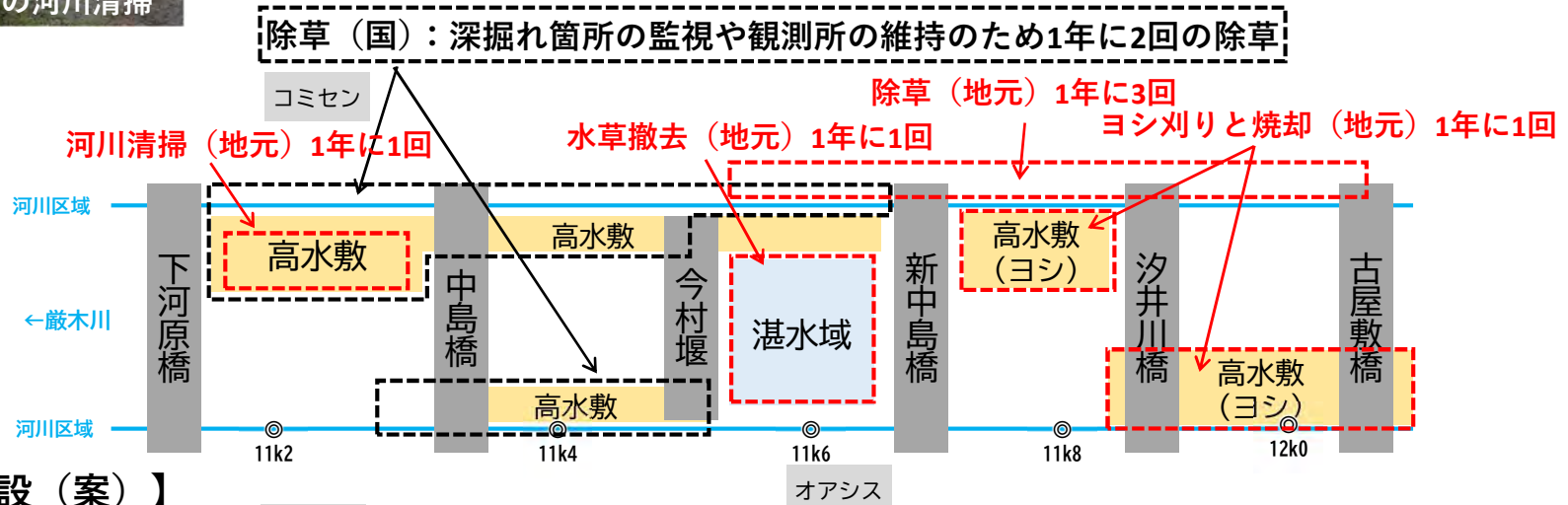
6. 第4回wsで出された主な意見（整備内容）



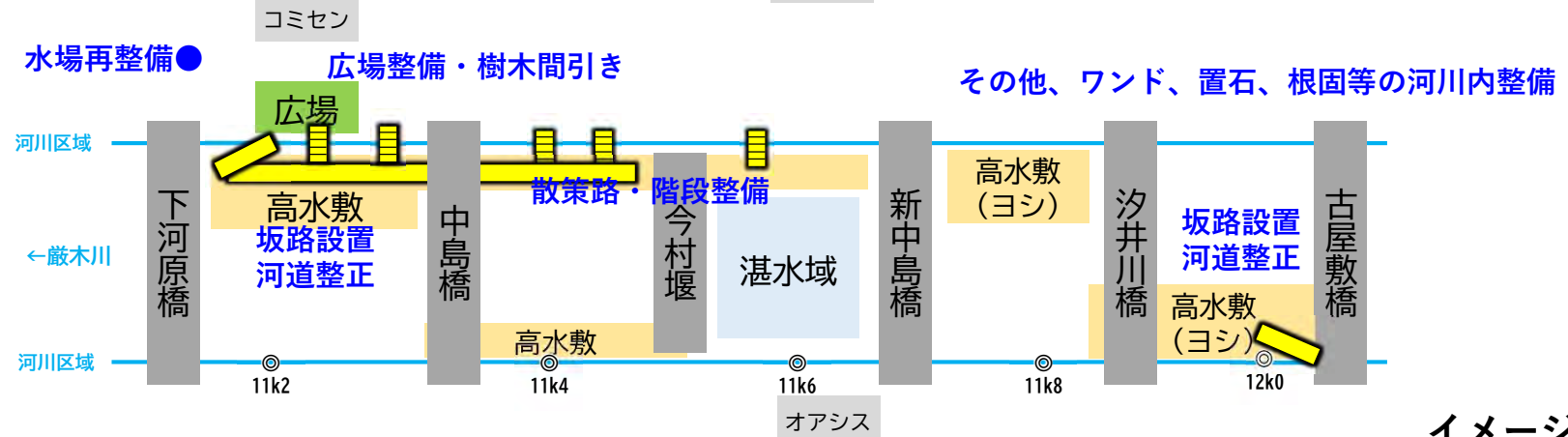
巖木川中島地区の維持管理の現状 （国・市・地元の役割分担）

7. 巖木川中島地区の国・市・地元の維持管理の現状（役割分担）

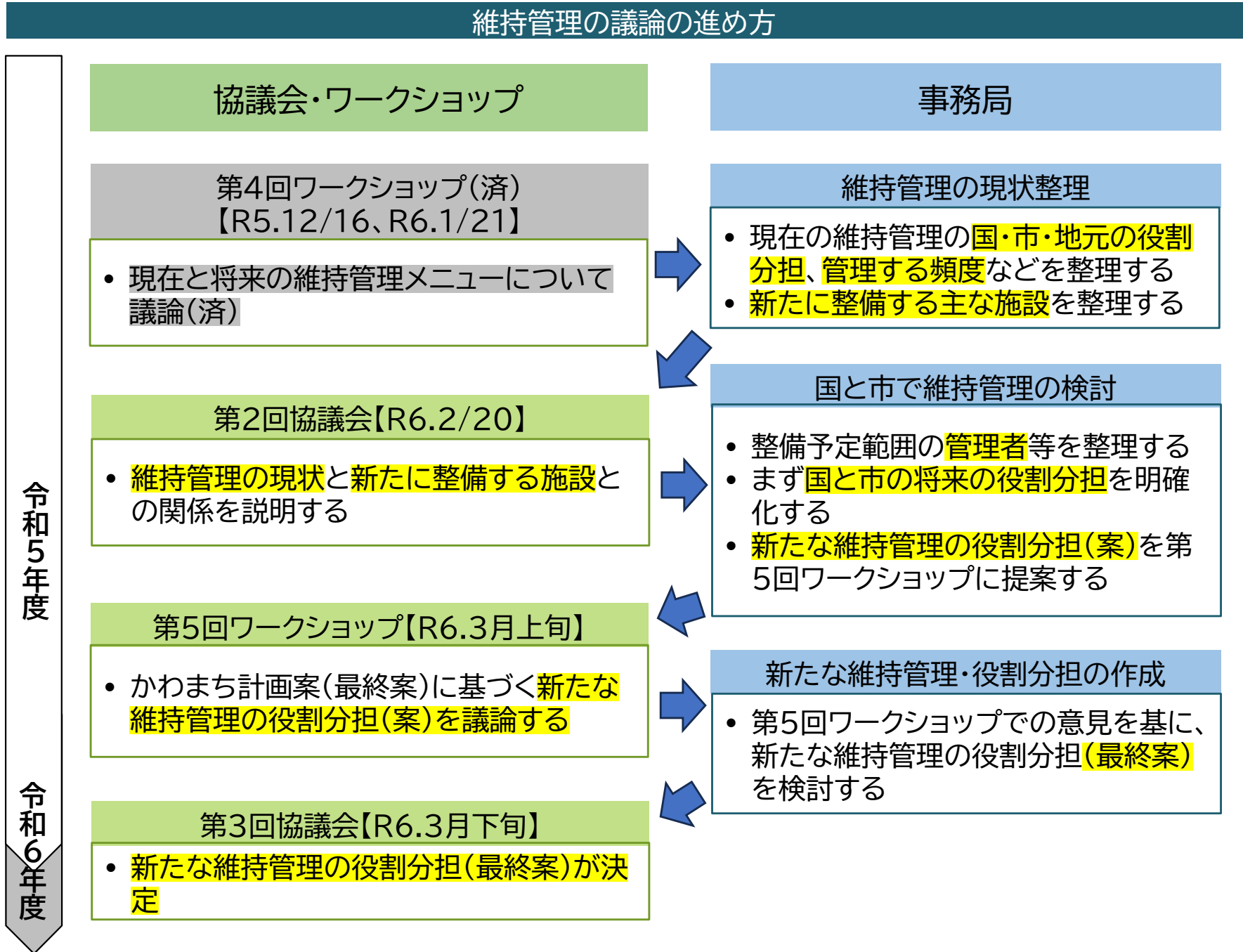
【現在の維持管理状況】



【主な整備施設（案）】



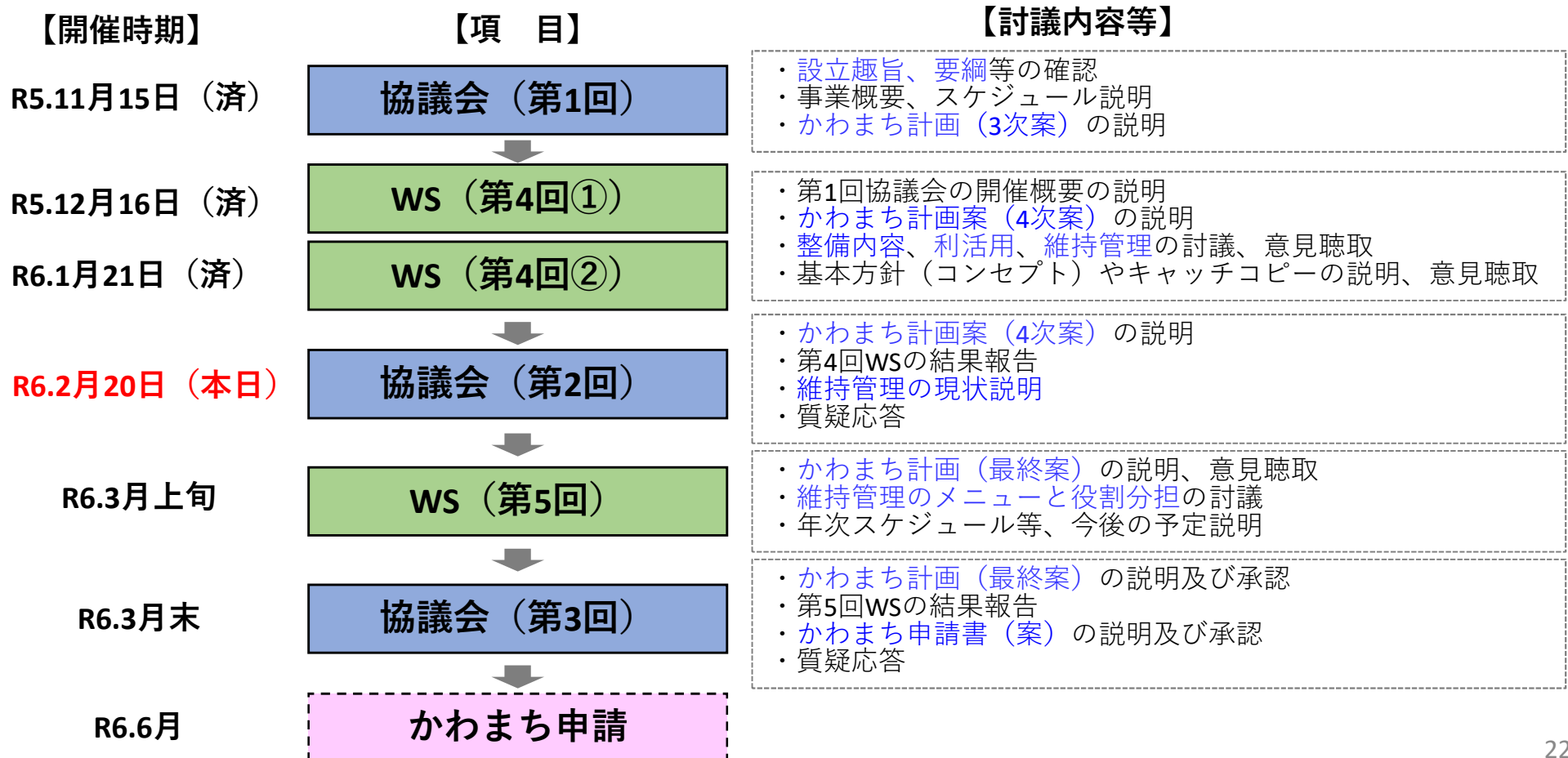
7. 巖木川中島地区の国・市・地元の維持管理の議論の進め方



巖木川中島地区かわまちづくり 今後の進め方

9. R5年度かわまちづくり計画の検討スケジュール

- 第1回協議会では、設立趣旨・要綱・かわまちづくり計画（3次案）を説明した。
- 第4回WSでは、第1回協議会の意見を踏まえたかわまち計画案（4次案）の整備内容・利活用方策・維持管理メニューについて議論した。
- **第2回協議会**では、かわまち計画案（4次案）の内容、**第4回WSの結果概要の報告、維持管理の現状を説明**した。
- 第5回WSでは、かわまち計画（最終案）の説明と維持管理の役割分担を議論する。
- 第3回協議会では、かわまち計画（最終案）、第5回WSの結果概要、かわまち申請書（案）を説明及び承認を得る。





厳木川中島地区かわまちづくり ワークショップニュース

4号

厳木川中島地区では、かわまちづくり支援制度を活用し「かわ」と「まち」が一体となったかわまちづくりを目指すため、みなさまと一緒にかわまちづくり計画をつくっていきます。この「ワークショップニュース」では、その様子をお知らせしていきます。今回は第4号です！

第4回 「かわまちづくり計画とキャッチコピーを考えよう」

実施概要

これまでの振り返りと整備イメージ4次案を踏まえ、グループワークでは、整備イメージ案を仕上げることで、整備後の利活用のイメージを共有し維持管理について考えること、かわまちづくりのキャッチコピーについて意見をいただきました。

日時：①令和5年12月16日（土）
13：30～16：00
②令和6年1月21日（日）
13：30～16：15

場所：中島集会所

参加者：①30名 ②31名

プログラム

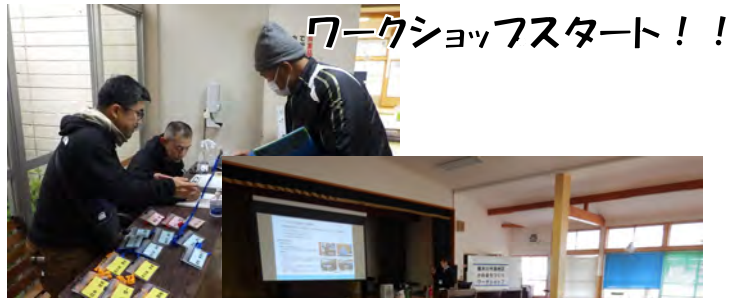
- 13：30 開会
- 13：35 全体説明
 - ・これまでの経緯
 - ・第3回ワークショップの振り返り
 - ・整備イメージ4次案
- 13：45 グループワーク
 - ・整備イメージを仕上げる
 - ・利活用イメージを共有
 - ・維持管理について考える
 - ・キャッチコピーを掲げる
- 15：10 発表
- 16：15 閉会

かわまちづくりとは

「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み』のことです。

かわまちづくりでは、地域らしさを活かした水辺や賑わいのある水辺、暮らしに寄り添う水辺がうまれています。

かわまちづくりには支援制度があり、厳木川中島地区ではこの制度に基づく「かわまちづくり計画」の登録を目指しています。



かわまちづくり計画案のとりまとめとキャッチコピーの案出し

各班で考えたかわまちづくり計画案について発表していただきました！

各班の意見を聞きながら、かわまち計画を上げていきます



整備内容・利活用・維持管理に関するまとめとキャッチコピー（案）をご紹介します！

【整備内容】

- 散策路：延長・幅・素材・勾配・雑草の繁茂対策など、利便性の向上や維持管理の負担軽減。
- 階段：利便性・まちとの連続性を確保した階段の改良・新設。

【利活用】

- 周辺施設との連携：道の駅、厳木温泉、白水造跡等の既存施設との連携や有効活用。
- 川リンピック：川リンピックの継続実施と環境学習等の他のイベントとのタイアップ。

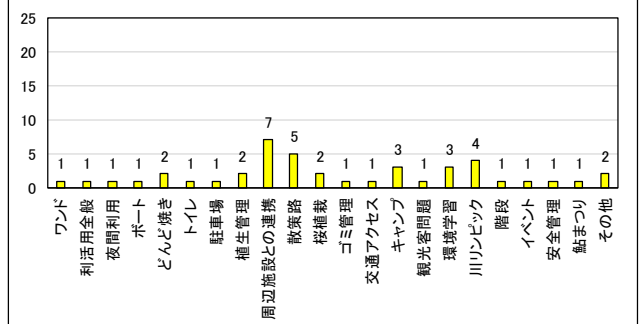
【維持管理】

- 植生管理：除草・樹木伐採・オオカナダモ除去等の作業分担・負担軽減。
- 土砂管理：堆積土砂の撤去（＝除草面積の軽減）

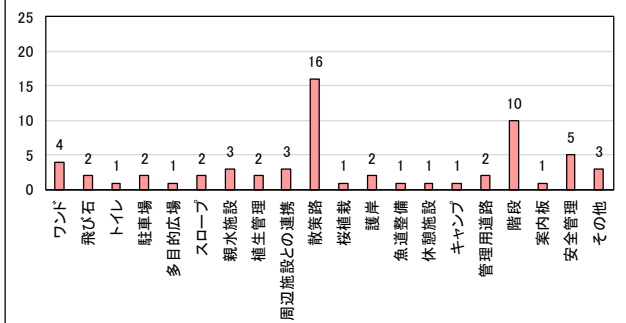
キャッチコピー案

・過去と未来を厳木川でつなぐふれ合いプロジェクト！

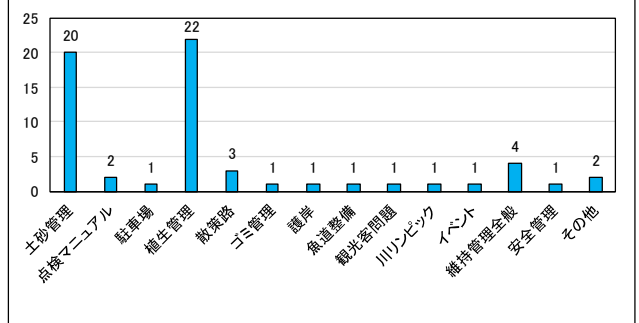
第4回ワークショップ①・②での利活用に関する意見



第4回ワークショップ①・②での整備内容に関する意見



第4回ワークショップ①・②での維持管理に関する意見



今後のスケジュール

かわまちづくり登録に向けて、地域のみなさまと計画検討を進めていきます。
第5回ワークショップは、令和6年を予定しています。



問い合わせ先：厳木市民センター（TEL：53-7110、FAX：63-3120）